

# エゾノコンギク

*Aster ageratoides ssp. ovatus f. yezoensis*

キク科



エゾノコンギク

## 名前の由来

北海道に生育するノコンギク。ノコンギクは、花が濃紫青色で古くから栽培されているコンギクに対して、野に生えていることから名付けられた。漢字名：蝦夷野紺菊

## 形態的特徴

高さ50~100cmになり、茎は上方でよく枝分かれます。茎や葉の両面には硬い毛が密に生え、ざらつく。葉は長楕円形で縁には少数の粗い鋸歯があり、わずかに柄がある。花は上部で分かれた枝先に多数つき径は2~2.5cm、筒状花が円形に集まり、その周りを淡い青紫色の細長い花びらを持つ舌状花が取り囲む。舌状花は20枚以下になることが特徴。  
**類似種と見分け方**：ユウゼンギク、ウラギク、ネバリノギク。全種とも全体の感じ、花の様子がよく似る  
 ユウゼンギクは全草無毛で、葉の基部がやや茎を抱き、舌状花が20枚以上になる点がエゾノコンギクと異なる。ウラ

ギクも全草無毛、葉は細長く厚みがあり、海岸近くの湿地に生育する点が異なる。ネバリノギクは有毛だが毛先が球状で触ると粘り、葉は細長く基部は茎を抱く点で異なる。



〈上〉エゾノコンギクは花びら(舌状花という独立した花)が20枚以下



〈右〉類似種のネバリノギクは花びら(舌状花という独立した花)が60~110個以上と多い

## 生育環境・分布

草原や山野で普通に生育する。  
**分布**：国外分布は、日本固有種。国内分布は、北海道。北海道内分布は、全道。  
 十勝地方では、草原や山野で普通に見られる。

## 生活史

開花時期：8~10月。開花までの年数：不明。  
 寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■この種も含めて東アジアからインドにかけて、外見がよく似た様々な型がある。ホソバコンギク、タニガワコンギク、ヤクシマノギク、センボンギクなどである。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■■■■■							
結実期					■■■■■							

## 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989 1982  
 「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001 「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊  
 「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 北海道大学図書刊行会 1993

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ